

# Tamanga Ran! Vol.4

青年海外協力隊 マラウイ派遣 本田 藍

こんにちは、皆さんお元気ですか？気づけばいつの間にか3月も末。マラウイでの生活も早いもので9か月目となりました。当初マラウイに来たときは2年は長いなと思っていましたが、こうして1日1日を現地の人と同じリズムで過ごしていると2年はあっという間に過ぎていくのだなと感じています。

## ◎今月の活動 ~Time is running away~

2月より小学校3校の巡回を始め、6,7,8年生を対象に週に1度、日本の文化や遊び、音楽や体育の授業をしています。マラウイの学校では5年生からは基本的にすべての授業が英語で行われていますが、現状はまだまだ現地語であるチェワ語の説明がなければついていけない生徒がほとんど。私の授業でもやはり言葉の壁が厚く、なかなか子どもに理解してもらえないこともあります。現地の先生たちをどうにか巻き込み、訳してもらったり補足説明してもらったりしながら、活動を進めています。新しいことや楽しいことに目をキラキラさせ笑う、子どもたちのとても素直な反応がとてもかわいく、私も楽しみながら授業をしています。



\*巡回校で子どもたちと一緒にグラウンドの草刈り

赴任してから半年ほど、私は何をしたいのかわからず、悩んでいた時期がありました。要請には現地の教員と協力して表現芸術科目（以下 E/A、日本の情操教育科目）の向上をはかるとあるものの、メイン校の観察を通して授業や学校の様子、先生たちの1日の流れなどを把握する中で、見えてきた多くの問題点。授業を見せてほしいと教室に行くと、必

ず「授業をしに来たの？Most welcome!!」と授業時間を譲ろうとしてくれる先生たち、時間割通りに進まないためよくスキップされる E/A、教員・生徒の遅刻、6年生でも九九を覚えていない生徒、ゴミのポイ捨て、野外排泄…。要請とそれ以前にどうにかしたいと思う点が多くあり、具体的に何をどこからどう取り組むのが現地の人のためになるのか、子どもたちによいのかわからず、動けなくなってしまっていました。



\*北部の隊員の任地にて。子どもたちと夕焼け

ある時、私は活動のパートナーとなってきているカウンターパートにアドバイスを求め、自分が悩んでいることを相談しました。すると、返ってきた言葉は「Time is running away、あなたは毎日座って観察しているだけで、何もしていない。先生たちは E/A の指導に困っている、あなたから学べることを期待しているんだ。」(そんなことはわかってる！だから“どうやって”の部分を教えてほしいの！！) と思ったことはさておき、この言葉で自分の中で何か吹っ切れたものがありました。私のここでの時間は限られている、私の活動の目標の一つは子どもたちの世界を広げること、そのためにできることからまず始めようと初心に戻ることができ、ようやく活動らしい活動を始めることができました。



\*年末に行ったりビングストニアから眺めたマラウイ湖

マラウイで活動していると、たまにヒロシマ・ナガサキを知っている、という人に声をかけられます。かつて、マラウイのセカンダリースクール（日本での高校にあたる）の歴史の教科書に日本の原爆のことが載っていたそうです。でも話をしていくと、実際にそこで何が起こったか知っている人はとても少ない…。そこで今回、マラウイ国内全7カ所で、広島・長崎の原爆についての展示会を行いました。私の任地では、3月10,11日に任地にあるセカンダリースクールで開催しました。



\*原爆展の様子

主にセカンダリーの生徒と先生たちを招待し、授業時間を使って校外学習のような形で参加してもらいました。原爆や被爆者、その家族、その後の街の復興などについてまとめられたポスターやパネル展示と、日本の基本情報や文化紹介（四季の写真、箸の使い方、折り紙、浴衣・はっぴ等）も合わせて行い、大盛況でした。生徒たちからは「日本とアメリカの現在の関係はどうなっているの？アメリカ人が憎い？」「日本人は神を信じている？」「日本の学校にはどうして進級試験がないの？（マラウイでは小学校から進級試験があり、合格しないと留年になるため）」など素朴で真っすぐな質問が飛んできて、答えているこちらも考えさせられることが多くありました。また、私自身もこの出来事について改めて学ぶよい機会となりました。

日本の友達や知り合いに、よくマラウイの子どもたちはどんな遊びをし、大人はどんな仕事に就いているの？と聞かれるので、今日はそのことについて。

子どもたちに、「放課後は何をするの？」と聞くと、多くの子が洗濯や食器洗い、料理と答えます。またマーケットで買い物をしていると、「マダムー（先生）、マダムー」と店番をしている子どもたちによく声をかけられます。マラウイの子どもたちは本当によく働き、家の手伝いを頑張っています。遊びといえば、女の子はネットボールとビニールをつなげて作った縄跳び、男の子はサッカーや側転やバック転、宙返りをそこら中でしています。また、どうやってそんなところまで登ったの!?と思うようなところまで上手に木に登り、マンゴーやグアバ、パパイヤなどのフルーツを取って食べたり、遊んだりしているのもよく見かけます。

大人は、人口の90%が農業に従事している、という数字が示す通り、私の任地も例外ではありません。街の中心地に限ってはコミュニティ開発局、森林局、教育委員会などのオフィスで働いている人やマーケットで商売をしている人もいますが、オフィサーであっても自分の畑を持っている人がほとんどで、特に今はメイズ（マラウイの主食）の収穫時期で忙しく、勤務時間中に抜けて自分の畑を見に行ってしまう人も少なくありません。

マラウイ人は大人も子どもも、小さな楽しみを見つけるのが上手で、よく笑い、よく喋ります。（電気があれば）マーケットではいつも大音量でアフリカンミュージックが流れており、踊っている人がいます♪

ただ、マラウイでは仕事がないのも大きな問題の一つです。マラウイ人はよく家族のことを質問してきますが、はじめの頃こんなやり取りがありました。

マラウイ人 A「兄弟はいる？」

私「お兄ちゃんがいるよ」

A「何をしているの？ Just stay? Just living?」

私「Just stay って何？」

A「仕事しないで家にいるってことだよ」

マラウイでは高校を卒業しても仕事がなく、ただ生活しているだけの人が多くいます。そのような人たちを指して”Just stay Just living”と言っているようでした。日本では聞き慣れない会話に驚きました。

\* ネットボールは日本ではあまり馴染みのないスポーツですが、アフリカで人気のスポーツで、マラウイのナショナルチームは2015年のワールドカップで大6位に入賞しました！